

映像	ナレーション						
<p>がん検診のメリット・デメリットを知っていますか？</p> <h2>がん検診の 賢い受け方</h2>	BGMのみ						
 <p>がん検診は正しく理解し受けることで</p>	がん検診は、正しく理解して受けることで、						
 <p>がんで死亡するリスクを下げることができる</p>	がんで死亡する可能性、つまりリスクを下げるができます。						
<p>※2022年3月時点</p> <table border="1"> <tr> <td> 胃がん 50歳以上 2年に1回 (エックス線検査または内視鏡) </td> <td> 大腸がん 40歳以上 毎年 (便潜血検査) </td> <td> 肺がん 40歳以上 毎年 (エックス線検査) </td> </tr> <tr> <td> 乳がん 40歳以上 2年に1回 (マンモグラフィ検査) </td> <td> 子宮頸がん 20歳以上 2年に1回 (細胞診検査) </td> <td></td> </tr> </table>	胃がん 50歳以上 2年に1回 (エックス線検査または内視鏡)	大腸がん 40歳以上 毎年 (便潜血検査)	肺がん 40歳以上 毎年 (エックス線検査)	乳がん 40歳以上 2年に1回 (マンモグラフィ検査)	子宮頸がん 20歳以上 2年に1回 (細胞診検査)		<p>世の中には色々ながん検診がありますが、国が推奨しているのはこの5つのがん検診です。</p> <p>これらを受診すると、がんで死亡するリスクは確実に下がります。対象年齢の人には、ぜひ受けて頂きたいがん検診になります。</p>
胃がん 50歳以上 2年に1回 (エックス線検査または内視鏡)	大腸がん 40歳以上 毎年 (便潜血検査)	肺がん 40歳以上 毎年 (エックス線検査)					
乳がん 40歳以上 2年に1回 (マンモグラフィ検査)	子宮頸がん 20歳以上 2年に1回 (細胞診検査)						
 <p>なぜ5つのがん検診以外は推奨されていないのでしょうか？</p>	では、これ以外のがん検診は、なぜ国から推奨されていないのでしょうか。						

 <p>がん検診についての理解を深めましょう</p>	<p>この映像では、その理由について考え、がん検診についての理解を深めましょう。</p>
	<p>がん検診はどんな初期のがんでも見つかる検査ほどいい、</p>
	<p>安心安全で害はない、</p>
	<p>若い時から受けるべき</p>
	<p>頻繁に受けたほうがいい、あるいは逆に3～4年に1回ぐらい受けていればいい、そんなふうに思っていますか？</p>

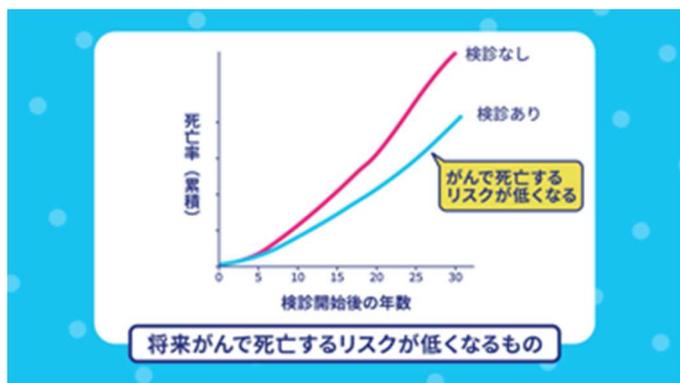


実はすべて正解ではありません。

まず、がん検診には受けるべきものと、そうではないものがあります。



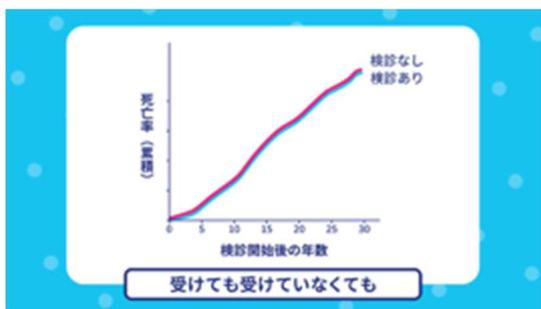
すべてのひとにお奨めできるがん検診とは、



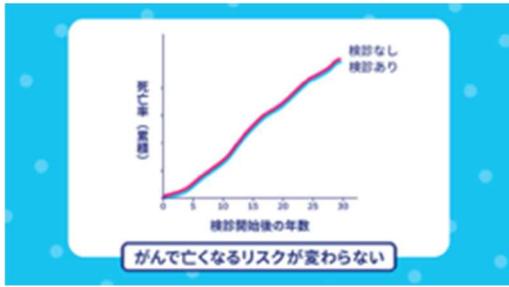
受けることで、
将来がんで死亡するリスクが低くなるものです。



逆に、お奨めできないがん検診とは、



受けても受けなくても、



将来がんで死亡するリスクが変わらないものです。



テロップ「デメリットが生じる場合もある」に変更

また、効果がないばかりか、受けることで、デメリットが生じる場合もあります。



がん検診のデメリットとはこういったものがあるのでしょうか？

ここからは、がん検診のメリットとデメリットについてご説明します。



メリットは、がんを早期に発見し、治療を始めることで、



がんで死亡するリスクを小さくできることです。

例えば、大腸がん検診を受けたひとの死亡リスクは、受診しなかったひとに比べて、半分以下になります。

テロップ

「がんで死亡するリスクを小さくできること」
 「大腸がん検診を受けた人の死亡リスクは」
 「受診しなかった人に比べて半分以下に」



一方、主なデメリットは3つあります。ひとつずつみていきましょう。

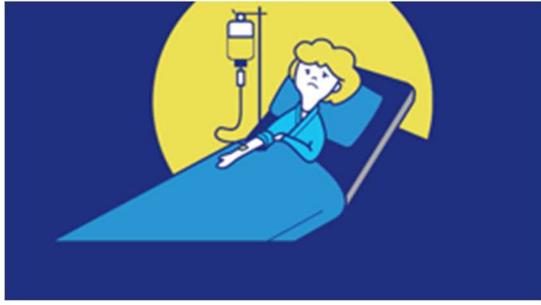
※「ので」を削除



1つ目のデメリットは、検査に伴って生じてしまうトラブルで、偶発症と呼ばれるものです。



がんの精密検査で、出血などが起こり、



テロップ追加

「入院が必要になることがある」

「大腸がんの精密検査では1万人に1人ぐらいの確率」

入院が必要になることがあります。

例えば、大腸がんの精密検査では、少なくとも1万人あたり1人ぐらいの確率で、入院が必要な無視できないトラブルが発生すると言われています。



2つ目は、がん検診の結果が誤りであることによるデメリットです。

多くの場合、がん検診の結果は正しいものですが、一定の割合で検診の結果には必ず誤りが生じます。



検診結果の誤りには「偽陽性」と「偽陰性」の2種類があります。

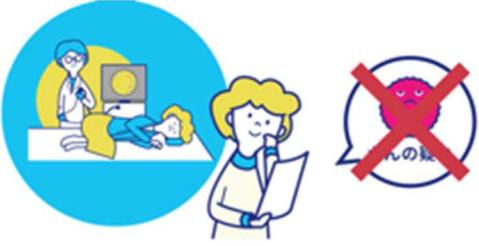


「偽陽性」から詳しく見ていきましょう。



「偽陽性」とは 検診結果では「がんの疑い」だったのに

「偽陽性」とは、検診結果では「がんの疑い」だったのに、



精密検査を受けると がんではなかった場合のこと

精密検査を受けるとがんではなかった場合です。



がん検診を受けた結果

例えば、がん検診を受けた結果、



全体の2~10%程度の方は「がんの疑い」となるが

全体の2~10%程度の方は「がんの疑い」と判定されます。

 <p>実際にかんと診断されるのは10%未満</p>	<p>しかし、その後精密検査で実際にかんと診断されるのは、そのうちの10%未満なのです。</p>
 <p>「がんの疑い」のひとの90%以上はがんではない</p> <p>テロップ 「「がんの疑い」のひとの90%以上はがんではない」 「がんではなかった人が抱く心の不安は大きい」 「病院での精密検査には費用や時間もかかる」 「これらは検診結果の誤りによって生じるデメリット」</p>	<p>つまり、「がんの疑い」のひとのうち、90%以上はがんではありません。</p> <p>ただ、「がんではなかった人」でも、結果がわかるまでの心の不安は大きいものです。さらに、病院での精密検査には、費用や時間もかかります。</p> <p>これらはすべて検診結果の誤りによって生じるデメリットです。</p>
	<p>次に、「偽陰性」です。</p>
 <p>「偽陰性」とは 検診結果では「異常なし」だったのに</p>	<p>「偽陰性」とは、検診結果では「異常なし」だったのに、</p>



その後に症状が出てがん と診断される場合のことです。



90~98%の人は「異常なし」と診断される

がん検診を受診した人のうち、90~98%の人は検診の結果が「異常なし」となります



1%未満のひとは その後にがん と診断されるケースも

このように、異常なしとされた中でも、0.1%前後、つまり、1000人に1人程度ということですが、検診の後にがんの症状が現れ、がん と診断される人もいます。

テロップ

「0.1%前後のひとは その後にがん と診断される ケースも」



がんの発見や治療が遅れて 死亡してしまうことも

「これも 検診結果の誤りによって生じるデメリット」に変更

これも、検診結果の誤りによって生じるデメリットで、このような人の中にはがんの発見や治療が遅れて亡くなってしまう人もいます。



これも 検診結果の誤りによって生じるデメリット

「がんの発見や治療が遅れて亡くなってしまう人も」に変更

※順番を入れ替えつつ、「死亡」の表現も変更されています



3つ目は、「過剰診断」です。

リスクのない
がん細胞



リスクのある
がん細胞



がんと言っても
放っておいても症状がなく死にも繋がらないリスクのないがんと、
放っておくと死につながるリスクのあるがんの2種類
があります。

リスクのない
がん細胞



リスクのある
がん細胞



過剰診断とは リスクのないがんを見つけてしまうこと

過剰診断とは、その死亡リスクのないがんを見つけて
しまうことです。

<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>リスクのない がん細胞</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>リスクのある がん細胞</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>この2つは区別できません</p> </div>	<p>このようなリスクのないがんと、リスクのあるがんは、発見した時は区別できません。</p>
--	--

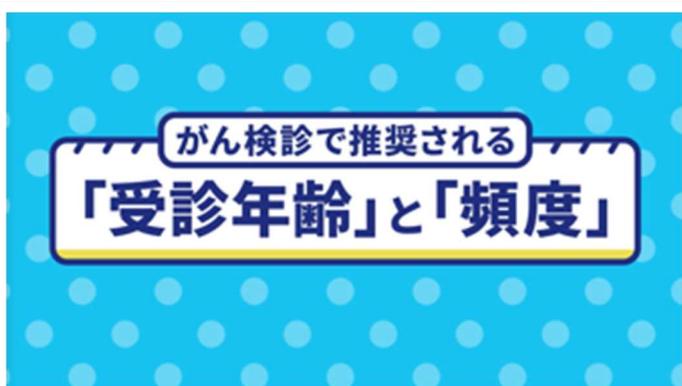
<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>リスクのないがんを 見つけなくても</p>  </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>リスクのないがんを 見つけてしまったら</p>  </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: bottom;"> <p>不要ながん検診を受けない</p> </td> <td style="vertical-align: bottom;"> <p>がん検診でがんが見つかる</p> </td> </tr> </table>	<p>リスクのないがんを 見つけなくても</p> 	<p>リスクのないがんを 見つけてしまったら</p> 	<p>不要ながん検診を受けない</p>	<p>がん検診でがんが見つかる</p>	<p>そのため、がん検診でリスクのないがんを見つけてしまうと、</p>
<p>リスクのないがんを 見つけなくても</p> 	<p>リスクのないがんを 見つけてしまったら</p> 				
<p>不要ながん検診を受けない</p>	<p>がん検診でがんが見つかる</p>				

<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  <p>普段どおり過ごす</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  <p>病院で治療することになる</p> </td> </tr> </table>	 <p>普段どおり過ごす</p>	 <p>病院で治療することになる</p>	<p>メリットがないのに大きな手術や抗がん剤の治療が必要になります。</p>
 <p>普段どおり過ごす</p>	 <p>病院で治療することになる</p>		

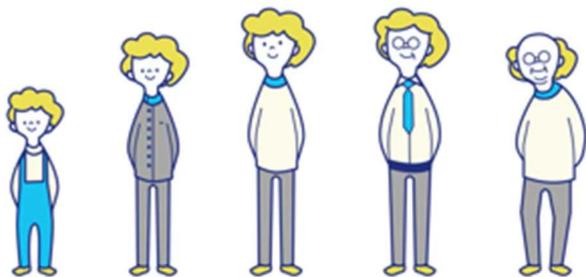
<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>治療の有無に関係なく 寿命は同じ</p> </td> </tr> </table>			<p>治療の有無に関係なく 寿命は同じ</p>		<p>しかも、治療をしたとしても、寿命は伸びません。前立腺がんや甲状腺がんには、このような過剰診断が多いことが知られています。</p>
					
<p>治療の有無に関係なく 寿命は同じ</p>					

	<p>こうしたデメリットがあるのを知ること、あなたも賢くがん検診を受けられるようになります。</p>
---	--

テロップ変更「デメリットも知ると賢くがん検診を受けられる」



また、がん検診を受ける時には、「年齢」や「頻度」についても注意しましょう。



がん検診が有効だとわかっているのは

がん検診が有効だとわかっているのは、



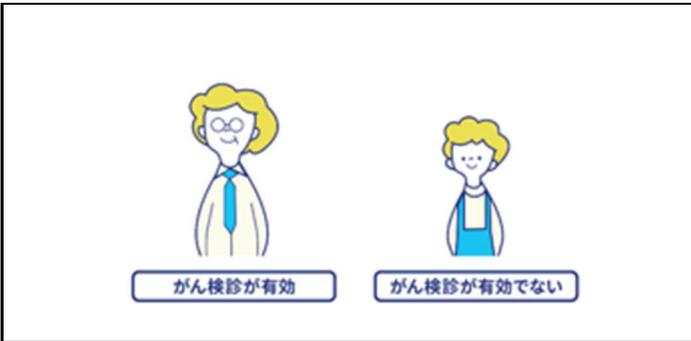
特定の年齢層だけです

特定の年齢層の人だけです。

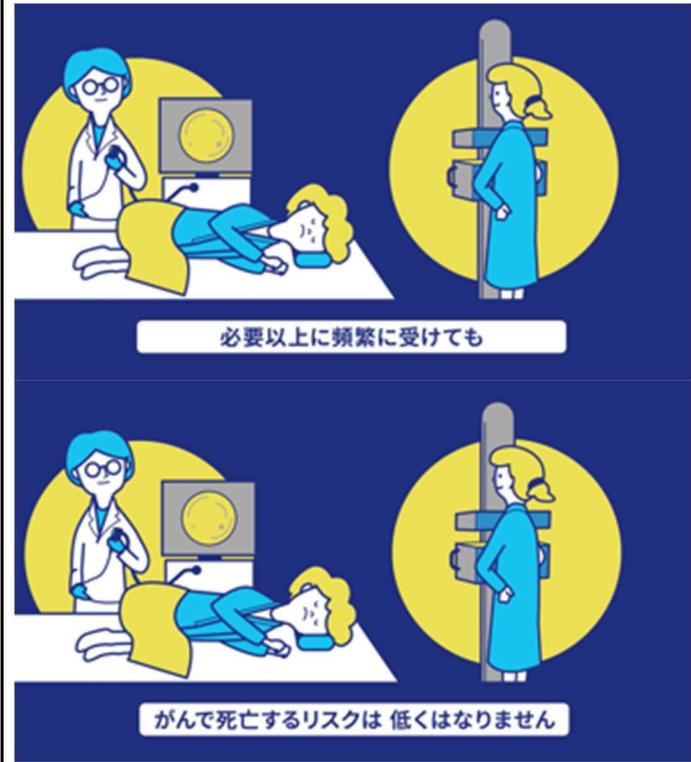


がん検診が有効

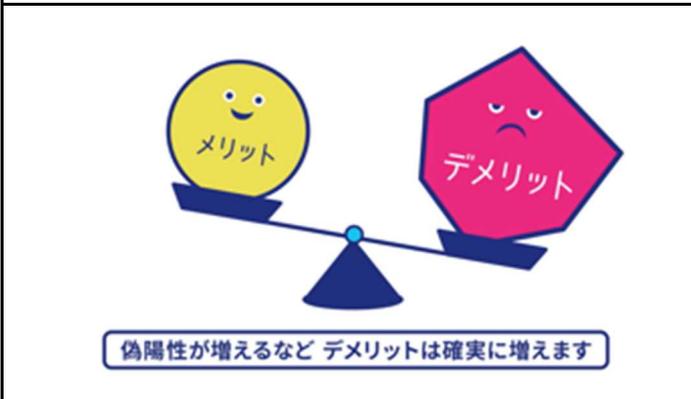
例えば、がんが多い世代にはがん検診が有効ですが、



がんが少ない子供たちには有効ではありません。



また、がん検診を必要以上に頻繁に受けても、がんで死亡するリスクは低くはなりません。

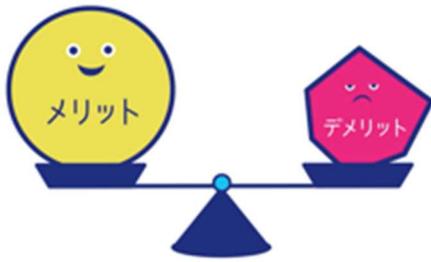


それどころか、偽陽性などのデメリットが確実に増えます。

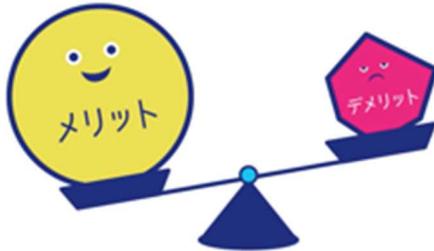
※2022年3月時点

胃がん 50歳以上 2年に1回 <small>(エックス線検査または内視鏡)</small>	大腸がん 40歳以上 毎年 <small>(便潜血検査)</small>	肺がん 40歳以上 毎年 <small>(エックス線検査)</small>
乳がん 40歳以上 2年に1回 <small>(マンモグラフィー検査)</small>	子宮頸がん 20歳以上 2年に1回 <small>(細胞診検査)</small>	

こちらが、国が推奨しているがん検診です。この年齢と頻度で受診すると、



がん検診のメリットは大きくなり



デメリットを小さくすることができる

がん検診のメリットは大きくなり、デメリットは小さくして済みます。



医師とよく相談してください

これ以外のがん検診は、医師と相談の上、ご自身で判断してください。

がん検診の 4つの注意事項

最後に、守って頂きたい注意事項が4つあります。

1



気になる症状がある場合は

まず、すでに気になる症状がある人は、がん検診を受けるのではなく、

 <p>①</p> <p>HOSPITAL</p> <p>すぐに医療機関を受診</p>	<p>すぐに医療機関を受診してください。</p>
 <p>②</p> <p>精密検査が必要だと言われたら</p>	<p>次に、がん検診の結果、精密検査が必要だと言われた場合は、</p>
 <p>②</p> <p>すぐに医療機関で精密検査を受けること</p>	<p>必ず、すぐに医療機関で精密検査を受けてください。</p>
 <p>②</p> <p>検診結果を持参してください</p>	<p>その際には検診結果をお持ちください。</p>
 <p>③</p> <p>異常なしと言われても</p>	<p>また、がん検診で、異常なしと言われても、</p>

<p>③</p>  <p>定期的にがん検診を受けること</p>	<p>一度でやめずに、定期的ながん検診を受けてください。2年後、3年後に発生するがんを見つけるためです。</p>
<p>④</p>  <p>次のがん検診までに症状が現れたら</p>	<p>最後に、たとえ、検診結果に異常がなくても、がん検診の後に何らかの症状が現れたら、</p>
<p>④</p>  <p>医療機関で すぐに精密検査を</p>	<p>次の検診まで待たずに、すぐに医療機関を受診してください。</p>
 <p>メリット・デメリットを正しく理解し</p>	<p>メリットやデメリット、注意事項を正しく理解して、</p>
 <p>がん検診を受けてください</p>	<p>がん検診を受けましょう。</p>

がん検診
の利益・不利益等の適切な
情報提供
の方法の確立に資する
研究班